



どうか、一人でも多くの方に この映画が届きますように...

2026年は、町の新年会からスタートした映画「おーるブルー」。北口監督と真謝出身の一樹役でも出演している平田理プロデューサーが、壇上で映画の撮影エピソードなどをお話させていただきました。

年が明けても、変わらずあたたかい声援を送り続けてくれている島の皆さんには、本当に感謝しています。ありがとうございます。

北口監督の「おーるブルー」コラム

撮影が終わり、はや3ヶ月が過ぎましたね。その後一体何が行われているのか気にされている方もいらっしゃるかもしれませんが、順調に編集は進んでいます。編集は撮影と違い、PCに向かってコツコツとマウスを動かすだけの孤独で地味な作業なんですけど、2月からは、音のプロフェッショナルと色のプロフェッショナルが編集作業に加わり、映画を仕上げていきます。

そして、なんと！4月にはどこよりも早く島内で特別試写会を開催できそうです。（次号あたりで詳細を掲載できるかな？）続報をお待ちください！



7,000人の応援メッセージリレー



今回は、『Hometown Tourism Kumejima』の仲宗根麻衣子さんです。

「泣きたくなったら久米島に来たらいいさあ〜」

数年前に久米島町観光協会にいた小田部早苗さんが最初に作った久米島の観光パンフレット。表紙にこのキャッチコピーが書かれた斬新なパンフレットで、出張先に持参した際に「男でも泣きたくなることもあるんだ！」と言ってパンフレットを大事に持ち帰ってくれた男性のお客様もいました。

そんなキャッチコピーから生まれた映画「おーるブルー」の撮影現場に10月上旬からお手伝いさせて頂くことになり、エキストラで出演したり、とても貴重な経験をさせていただきました。北口監督をはじめ、俳優兼プロデューサーの平田理さんやゴリさん、その他の俳優さん、助監督さん、録音さん、美術さん、撮影さん、照明さん、制作さん、衣装さん、エキストラさん、そして小田部さんも、たくさんの人の力が合わさって、できたこの映画は、本当に久米島の宝物ですね！また、JA 婦人部の手作りのジュシーとソーキ汁の昼食、サーターアンダギーの差入れや撮影現場装飾用の植物を提供頂いたりなど、たくさんの島人の愛情ふれる撮影期間で楽しかったです。関係者の皆様、ありがとうございました！



▲仲宗根さん（左）とスタッフの皆さん



▲JA 女性部の炊き出し



装飾用の植物▶

皆さまのお力を
お貸し下さい

引き続き協賛金を受け付けております。
詳しくは、右のQRコードからもしくは下記実行委員会までご連絡下さいませ。



『おーるブルー実行委員会』（FM くめじま内）☎ 985-2770 E-mail: oolobblue@gmail.com 担当：コタベ

